

アマルティア・セン著「グローバリゼーションと人間の安全保障」

日本経団連出版 2009年2月26日刊を読む

新しい焦点 - ヒューマン・セキュリティ -

- 1 . (1) ヒューマン・セキュリティという概念とその広範な関連領域を理解する方法の一つは、1998年の「アジアの明日を創る知的対話」における小渕首相(当時)の洞察深い発言を振り返ってみることです。
(2) 私は、「人間は生存を脅かされたり尊厳を冒されることなく創造的な生活を営むべき存在であると信じています。」
(3) 小渕首相はこう述べ、その信条との脈絡で、「人間の安全保障」(ヒューマン・セキュリティ-)という概念を提示しました。
(4) ヒューマン・セキュリティ-は、「人間の生存、生活、尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威を包括的に捉え、これに対する取組みを強化するという考え方」を示すキーワードである、とも云っています。
- 2 . (1) 留意すべきは、この発言の焦点が一般的な不平等に対してではなく、弱者の立場に置かれている世界中の人々をさらに窮地に追い込むようなあらゆる危険に対して当てられていることです。
(2) 人間の生存、日常生活、そして尊厳性が脅威に晒されている人々が存在する反面、そのような脅威を全く感じていない人々も存在するというのは、もちろん一種の不平等であり、そのような状況が配分のグローバルな不平等性にどのような意味を持つかは明白です。
(3) しかし、世界中のさまざまな人々の間に見られるヒューマン・セキュリティ-欠如に関する問題と、経済の成長・拡大がもたらす恩恵の配分に見られる不均衡と不平等の問題とは区別しなければなりません。
(4) ヒューマン・セキュリティ-欠如問題は、経済成長が配分の公平に結びついている場合であっても、存在し得るのです。
- 3 . (1) 具体的な例を挙げましょう。
(2) 韓国を含む東アジア経済の多くは、1980年代と1990年代の大半を通じて、経済成長と配分の公平を結びつけることに見事に成功し、世界中のエコノミストや経済開発専門家たちからこぞって称賛されました。

(3)しかし 1997 年、アジア経済危機が発生すると、職を失い、利益が期待できる経済活動から締め出された人々にとっては、公平を伴った成長であってもヒューマン・セキュリティ - を保障するものではなかったことが、急に明白になりました。

(4)公平を伴った成長とヒューマン・セキュリティ - 欠如とが同時に発生する場合もあり得ることを示す証拠は、他にもたくさんあります。

4 . 経済ブーム時にすべての人々が一緒に上昇気流に乗った場合でも、落下するときにはばらばらになり、弱い立場に置かれている人々が最も大きな打撃を蒙ることになるのです。

P41 ~ 43

[コメント]

人間の安全保障の基本をわかりやすく書き記したセン先生の文章。世界大不況の今日ほど人間の安全保障の大切さを痛感する時はない。

- 2009 年 4 月 26 日林明夫記 -